

## 長尺化したBS - 1.6ULの特性 - BS 1.6Uとの比較検討より -

第56回 大阪透析研究会

第46回 日本透析医学会学術集会

丸山禎之・和田 茂<sup>1</sup> / 河合右展・脇川 健・山田明子・佐々木敏作<sup>2</sup> (大阪掖済会病院 透析室<sup>1</sup> / 内科<sup>2</sup>)

【目的】溶質クリアランスの向上を目的として BS - 1.6U (BS U) の中空糸を長尺化した BS 1.6UL (BS UL) のその形状の有用性をみるため従来の BS U とで比較検討を行った。

【方法】3 症例にて BUN、Cre、iP のクリアランス (CL) とハウジング形状の違いによる凝固時間を比較するため透析開始後の 20 分間を無ヘパリン透析とし、透析開始時と 20 分後の透析器出入口の ACT を測定した。また各透析器 3 本によるブラッシング洗浄中 (180ml / min) の微粒子数を経時的に測定した。尚、洗浄液は浄化透析液を用いた。

【結果】BS UL の BUN と iP の CL は BS U に比し、有意に向上した ( $p < 0.05$ )。透析 20 分後の BS U 入口の ACT は  $81.2 \pm 3.7s$ 、BS UL は  $88.4 \pm 6.0s$  となり、時間短縮は抑制された ( $p < 0.01$ )。BS U の微粒子数は洗浄 8 分で  $330 \pm 316$  個 / ml となったが、BS UL は 24 分後も  $3112 \pm 1019$  個 / ml と高値を示した。

【結論】長尺化した BS UL は溶質のクリアランス向上と透析中の凝固活性を抑制させたが、中空糸内の水洗性に問題がみられた。